

2018 年 9 月 29 日

平安京右京三条三坊五町の大邸宅

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 山本 雅和

はじめに

昨年、京都市中京区の島津製作所三条工場地内で実施した発掘調査で、平安時代前期（今から約 1,200 年前）の大規模な邸宅跡が見つかりました。調査地は、平安京の住所表記では平安京右京三条三坊五町になり、北を姉小路、東を宇多小路、南を三条大路、西を馬代小路に囲まれた区画となります（図 1）。

1. 周辺の調査

これまで調査地周辺では、多数の調査を実施しており、平安時代前期から中期を中心とする遺構・遺物が見つかりました（図 2・表 1）。

平安京の道路に関わる遺構では、西堀川小路・西堀川（図 2-1）、野寺小路（図 2-6・7・11・14）、道祖大路（図 2-9・12・28）、宇多小路（図 2-20）、三条坊門小路（図 2-7・10・12）、姉小路（図 2-20・21）があります。

西堀川は、平安京造営にあたって西堀川小路の中央部に人工的に掘削された運河ですが、洪水のため土砂が堆積し、平安時代中期には埋まってしまいました。その結果、洪水対策や周辺地域の水はけを良くするために、野寺小路や道祖大路の路面を掘りくぼめて、新たに大規模な溝（水路）を掘削したことが明らかになってきています。

右京三条二坊十六町（図 2-14・15・西京高校）の発掘調査では、平安時代中期前半の 1 町規模（約 120 m 四方の方形）の邸宅が見つかりました。敷地中央部に泉や洲浜を備えた池があり、周囲には 5 棟の掘立柱建物や柵・井戸などの施設が造られていました。「齋宮」「齋雑所」などの文字を記した墨書土器が出土したことから、伊勢神宮に奉仕する皇族の女性＝齋王が居住した邸宅であることが判明しました。

右京三条二坊十四町（図 2-9）の発掘調査では、道祖大路東側沿いで小規模な掘立柱建物・井戸が見つかりました。4 分の 1 町あるいは 8 分の 1 町の宅地で、隣地とは堀によって区画されます。平安時代前期から中期前半にかけて 3 時期の変遷があったことが明らかとなっています。

御池通北側の右京三条三坊九町（図 2-24）では、平安時代前期の L 字形に配置された 2 棟の建物・井戸・土坑が見つかり、獅子をかたどった唐三彩の枕の破片が出土しました。

右京三条三坊十町（図 2-25）では平安時代中期の木棺墓が見つかりました。棺内には銅鏡のほか毛抜き・眉墨・漆器皿などを収めた化粧道具箱が副葬されていました。

右京三条三坊三町（図 2-16・17・18）では、1 町の範囲を分割して宅地として利用しているようすが明らかとなりました。平安時代前期は北西部の 4 分の 1 町に複数の掘立柱建物と井戸・堀を備えた邸宅がありました。一方、東部には平安時代前期後半から中期にかけて

2 分の 1 町程度の邸宅があったと考えています。

右京三条三坊四町（図 2-19・20）では、平安時代前期の 1 町規模の邸宅が見つかりました。北西部に 3 棟の大型建物をコ字形に配置しており、中心建物は東西約 21 m、南北約 10 m で、桁行 7 間×梁間 2 間の身舎（建物の中心部分）の南面に庇が付きます。平安京域で見つかった最大級の建物です。また、東側の道祖大路から出入りした通路が見つかったことから、宅地の門が大路に面して開いていたことがわかりました。

今回の調査地がある右京三条三坊五町では、これまでに 2 回の調査を実施しています（図 2-21・22）。調査地東側では、平安時代前期の 2 棟の建物・柵・井戸・姉小路南築地内溝などが見つかりました。建物は東西 12 m 以上、南北約 7.2 m で、桁行 5 間以上×梁間 2 間の身舎の南面に庇が付きます。今回の調査で西側の建物西端を検出したことから同じ規模の建物が東西に 2 棟並んでいたことが推定できます。また、姉小路南築地内溝からは、当時の高級品である灰釉陶器・緑釉陶器を含む土器・陶磁器がまとまって出土しています。

調査地南側では、平安時代前期の 2 棟の大型建物・溝などが見つかりました。建物は L 字形に配置されており、西側の建物は南北約 21 m、東西約 8 m で、桁行 5 間×梁間 2 間の身舎の東面に庇、南北両側に縁が付きます。東側の建物は東西約 21 m、東西約 8.5 m で、桁行 7 間×梁間 2 間の身舎の南面に庇が付きます。ともに平安京域で見つかった最大級の建物です。

2. 調査で見つかった遺構

今回の調査は、右京三条三坊五町北西部の約 4 分の 1 町の範囲を対象としました。調査範囲は約 4,580 m²もの広さなので、南半部・北半部に分割して調査を進めました。宅地内の 8 棟の建物や区画溝に加えて姉小路の路面・側溝などが見つかりました（図 3）。

南半部中央の建物 1 は建て替えが行われています。古い方（建物 1 古）は、東西約 15.0 m、南北約 10.8 m の東西棟で、桁行 5 間×梁行 2 間の身舎（建物の中心部分）の南北両面に庇が付きます（図 4）。新しい方（建物 1 新）は、東西約 21.0 m、南北約 9.0 m の東西棟で、桁行 7 間×梁行 2 間の身舎の南面に庇がつく、平安京域では最大級の大型建物です。周囲には浅い溝がめぐります（図 5）。

建物 4 は建物 1 と重複する位置にあり、東西約 14.3 m、南北約 5.4 m の東西棟で、桁行 5 間×梁行 2 間です。庇はありません。建物 1 古よりもさらに先に建てられたものです。

建物 5 は建物 1 の北側に位置しており、建て替えが行われています。古い方（建物 5 古）は、東西約 14.3 m、南北約 8.4 m の東西棟で、桁行 5 間×梁間 2 間の身舎の南面に庇が付きます。周囲には工事用足場穴があります（図 6）。また、新しい方（建物 5 新）は、同じ規模・構造で柱間 1 間分南側に位置しています。

建物 6 は建物 1 と重複する位置にあり、東西約 2.8 m、南北約 4.8 m の南北棟で、桁行 2 間×梁行 1 間です。小規模な建物で庇はありません。建物 1 古よりもさらに先に建てられたものです。

建物 1 と建物 5 は中心軸がそろっていることから、これらは 2 棟一組で使用され、同時に建築、建て替えが行われたと推定できます。また、建物 1 古・建物 5 古に先行して建物 4・

建物6がありました。3段階の建て替えは短期間のうちに行われたようです。

東部の建物2は、調査地東側の調査で東端を検出した建物の延長部にあたります。今回の調査で西端を確認したことから、東西約14.4m、南北約7.2mの東西棟であることが確定しました。桁行6間×梁行2間の身舎の南面に庇が付きます。身舎の東西中心にはやや小さい別の柱穴があり、間仕切りの痕跡と考えています。柱穴には柱根が残っています。

南東部の建物3は、南壁部を拡張した結果、東西約6.3m、南北約6.0mの東西棟で、桁行3間×梁行2間の建物であることが確定しました。柱穴には河原石を入れていることから重量物を支えた構造が推測できるため、倉庫と考えています。

建物2の西側の溝80Bは、南に傾斜することから排水機能を持っていましたが、建物3の北西側を囲むように屈曲することから、邸宅内を東西に区画する機能がより重視されていました。東部の溝832・溝810・溝90・溝80Aからは多数の土器類が出土しており、これらの中には「政所」「齋」の文字を墨書した土器があり、邸宅内の建物の機能を知る手掛かりとなりました。なお、溝80Bに接続する東西溝210、さらにこれに接続する南北溝547は大きく建物1・建物5の南側・西側を囲んでおり、建物の周辺の水を集めて溝547により調査区外南西側へ排水する機能を持っていたと考えられます。

建物5の北に接して、邸宅の北側を区画する姉小路南築地804と築地内溝831があります。溝831は溝80BとT字形に接続しています。これらの北側になる姉小路部分は、平安京の条坊復原にはほぼ一致する位置で検出しました。調査区北端に北側溝799と路面800の一部が残るのみで、大部分は東西方向の大規模な溝（水路）801・溝（水路）807となり、姉小路の路面幅は1～2mに減じています。これらの溝（水路）は平安時代中期から後期に人為的に掘削されたもので、野寺小路や道祖大路などで見つかった南北方向の大規模な溝（水路）と同様に、東西方向の街路である姉小路でも周辺地の排水や洪水対策を目的とした施工が行われたことが判明しました。

3. 出土した遺物

出土した遺物には、土器・陶磁器、瓦、木製品などがあり、大部分は平安時代前期のものです。

土器・陶磁器は、土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器の食器類のほか、調理具として使用された須恵器の鉢、鍋として使用された土師器の甕などがあります。わずかながら中国製磁器の破片も出土しています。

瓦には軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦があります。文様がある軒丸瓦・軒平瓦は、平城京や長岡京の建物に使用されていた瓦です。丸瓦・平瓦の多くは建物周辺の地盤を補強する整地土に混ぜ込まれていました。

木製品には柱根・礎板などがあります。柱根は掘立柱建物の柱が地中に残されたもので、建物5の柱根は直径30cm近くもあり、地中に埋める根元部分は粗く面取りをしています。一方、建物2の柱根は直径10cm程度の丸木で、建物の規模によって使用する柱の大きさが異なることがわかります。礎板は沈下を防ぐために柱の下に入れた板材です。また、わずかながら檜皮が出土していることから建物の屋根が檜皮葺であったことが判明しました。

まとめ

これまでの発掘調査成果から、右京三条三坊五町は1町規模（約120m四方の方形）の邸宅であったと考えられます（図7）。

今回の調査で南北に並ぶ建物1・建物5が見つかったことから、邸宅北西部に2棟の大型建物からなる区画があったことが明らかとなりました。邸宅南東部の2棟の大型建物との関係が注目されます。邸宅北東部には東西に並ぶ2棟の建物と倉庫があり、邸宅の生活を支える区画でした。また、平安時代中期以降、姉小路が大規模な溝（水路）となったことは、野寺小路や道祖大路などで見つかった大規模な溝（水路）と考え合わせることで、平安京右京域の整備状況を明らかにする貴重な発見となりました。

このように島津製作所三条工場周辺は、平安時代前期を中心として平安京内でも最大級の大型建物を備えた1町規模の邸宅が集中する、いわば高級住宅街を形成していました。しかしながら、中期頃には建物が減少、後期になると見られなくなります。この頃には中心市街地は平安京の東半部、左京域へと移っていったのでした。

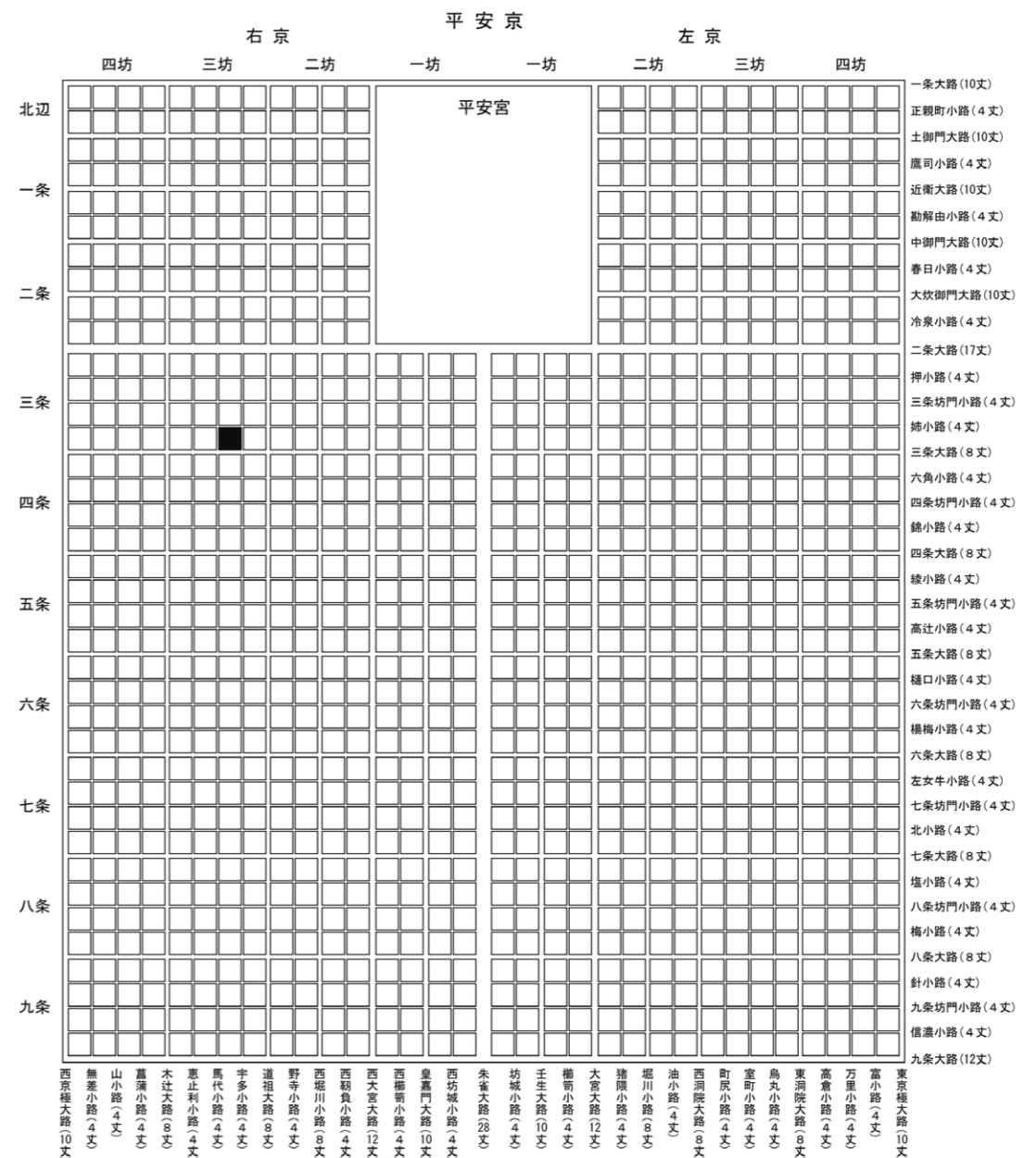


図1 調査地位置図

表1 周辺調査一覧表

番号	調査概要	文献	備考
1	10世紀後半の西堀川小路路面・西側溝・西堀川など。	注3	
2	9世紀の建物、10世紀中頃の整地層・溝など。	注4	西大路御池駅駐輪場の調査
3	詳細不明。		他団体の調査、未報告
4	9世紀前半の井戸、9世紀から10世紀の建物・十二町中央を流れる南北水路など。	注5	
5	鎌倉時代から室町時代の土取跡・柱穴。	注6	
6	10世紀中頃の野寺小路西側溝・井戸・柱穴、10・11世紀の野寺小路川、鎌倉時代の野寺小路側・堰など。	注7	
7	平安時代中期の三条坊門小路南側溝・野寺小路東西側溝・柵、平安時代後期から鎌倉時代の野寺小路川など。	注8	島津製作所8次調査
8	9世紀後半二面庇建物を含む建物3棟など。	注9	他団体の調査
9	9世紀中頃から10世紀前半の3時期の建物群・三条坊門小路南側溝・井戸・道祖大路川など。絵馬が出土。	注10	島津製作所9次調査
10	9世紀前半の土坑、9世紀中頃の三条坊門小路北築地内溝・室町時代の溝など。	注11	西大路御池駅の調査
11	10世紀前半の建物・土坑、12世紀の柵・野寺小路川など。	注12	西大路御池駅昇降口の調査
12	9世紀後半から10世紀前半の三条坊門小路南側溝・道祖大路西側溝・道祖大路川など。	注13	西大路御池駅昇降口の調査
13	9世紀末から10世紀前半の建物・溝、平安時代後期の溝、室町時代の井戸など。	注14	西京高校校内の調査
14	平安時代中期の建物・井戸、平安時代後期の押小路南北側溝・野寺小路川など。	注15	西京高校校内の調査
15	9世紀後半から10世紀前半の建物群・庭園・井戸・道路など。「齊宮」などと記した多数の墨書土器が出土。	注16	西京高校校内の調査「齊宮」の1町規模の邸宅
16	古墳時代前期の溝、9世紀後半の建物・柵・井戸・溝・落込みなど。	注17	島津製作所2次調査
17	9世紀後半から10世紀前半の建物、10世紀前半の井戸、10世紀の道祖大路東側溝。	注18	島津製作所12次調査
18	古墳時代初頭と中期の溝、9世紀中頃の井戸・溝・小径・土坑など。	注19	島津製作所10次調査
19	9世紀前半から中頃の道祖大路西築地内溝と橋・建物・土坑など。	注20	島津製作所3次調査1町規模の邸宅
20	古墳時代中期の溝、9世紀前半の大型建物・宇多小路東築地と内溝、姉小路南築地内溝など。	注21	島津製作所11次調査1町規模の邸宅
21	9世紀前半の建物・柵・井戸・姉小路南築地内溝など。	注22	島津製作所5次調査1町規模の邸宅
22	9世紀前半の大型建物2棟・柵・溝など。	注23	島津製作所6次調査1町規模の邸宅
23	遺構未検出。	注24	他団体の調査
24	古墳時代中期の堅穴住居・土坑・河川、9世紀中頃から後半の四面庇建物2棟・井戸・溝・土坑など。	注25	他団体の調査
25	古墳時代中期までの流路、古墳時代中期の溝、9世紀中頃から後半の建物・柵・溝・土坑、10世紀の木棺墓など。化粧道具が出土。	注26	島津製作所1次調査
26	平安時代の整地層。	注27	島津製作所7次調査
27	古墳時代以降の湿地状の堆積。	注28	島津製作所4次調査
28	9世紀後半と12世紀の建物、9世紀後半の井戸、10～12世紀の道祖大路川。	注29	

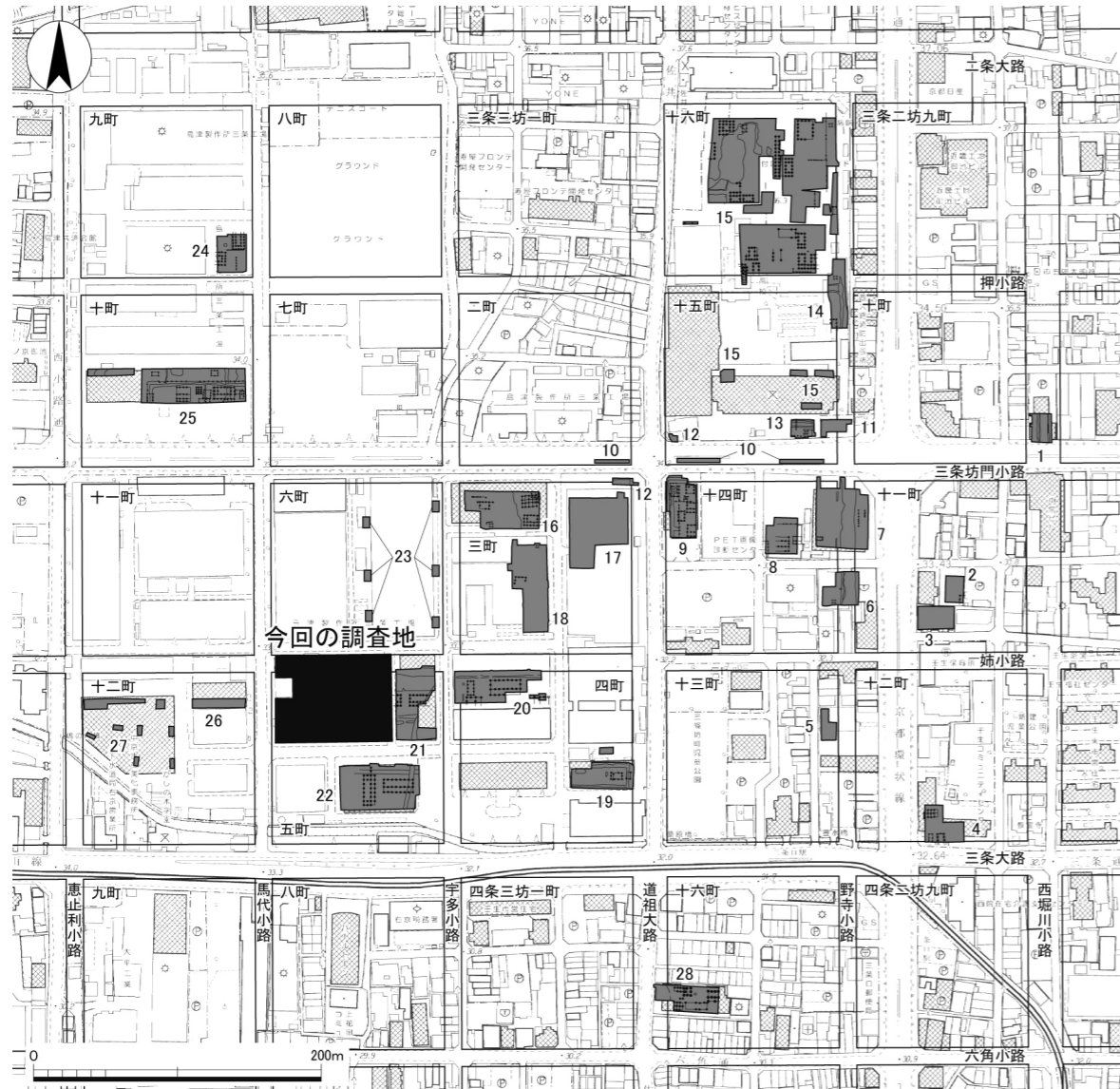


図2 周辺調査位置図

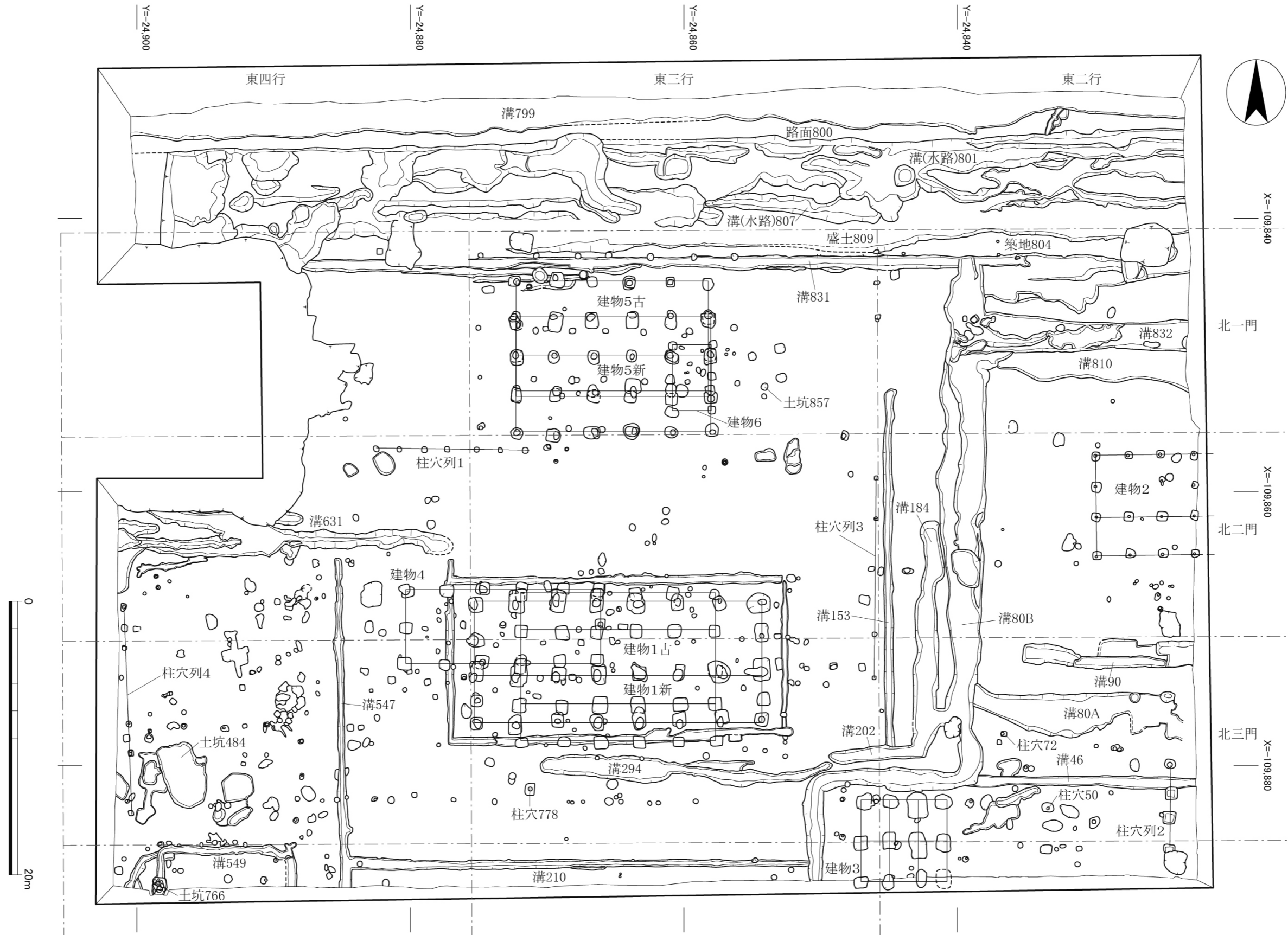


図3 平安時代の遺構平面図

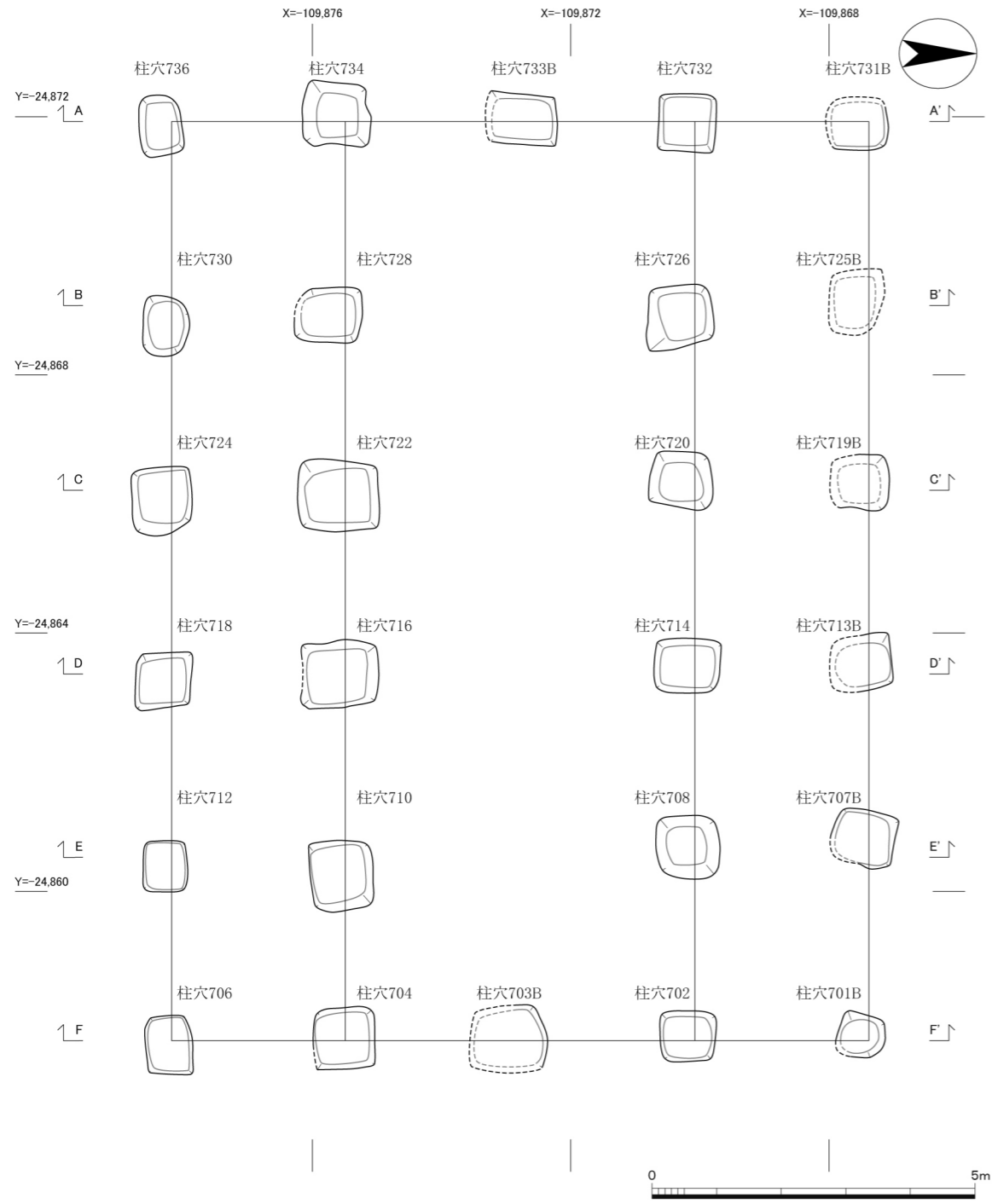


图4 建物1古平面图

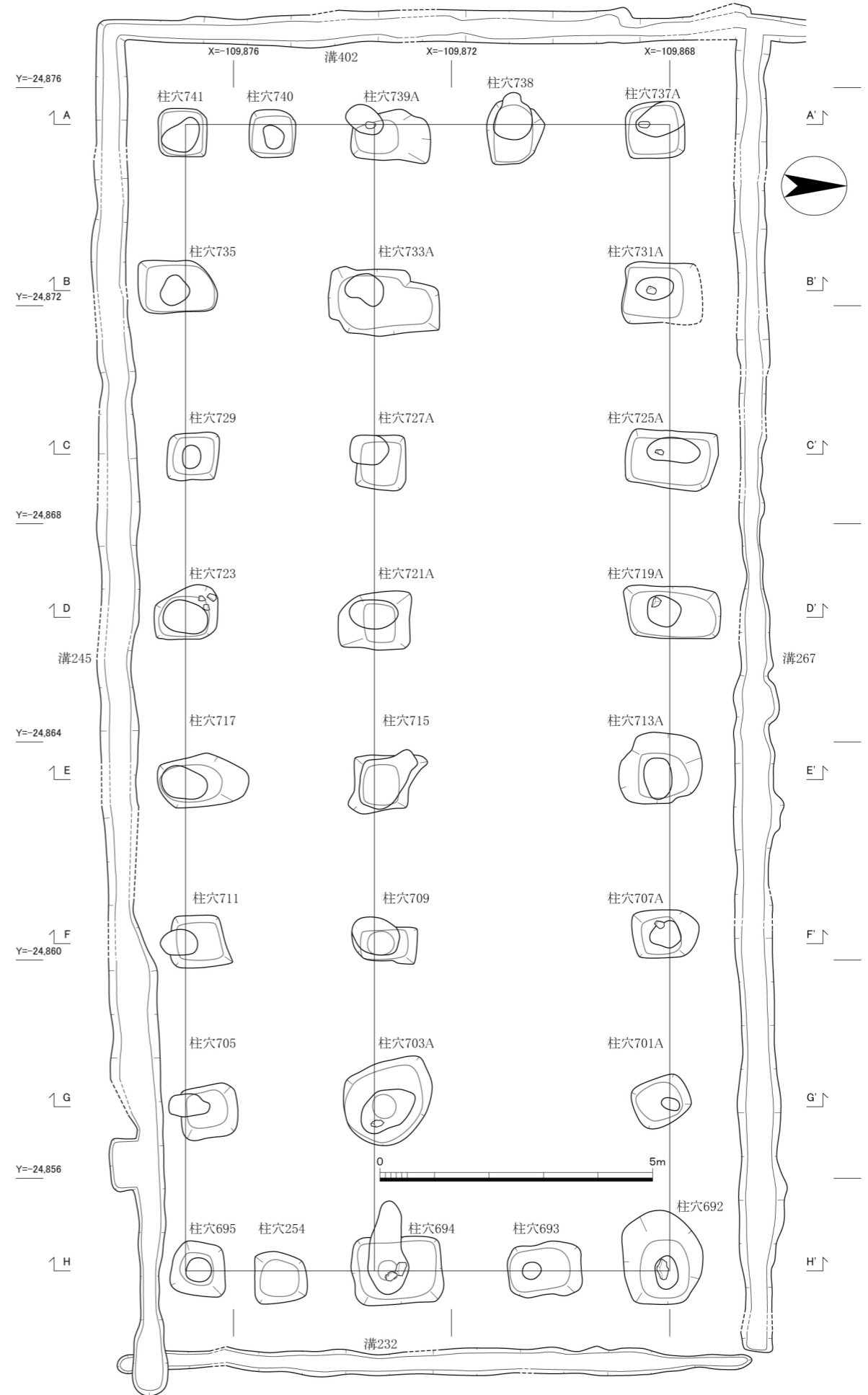


图5 建物1新平面图

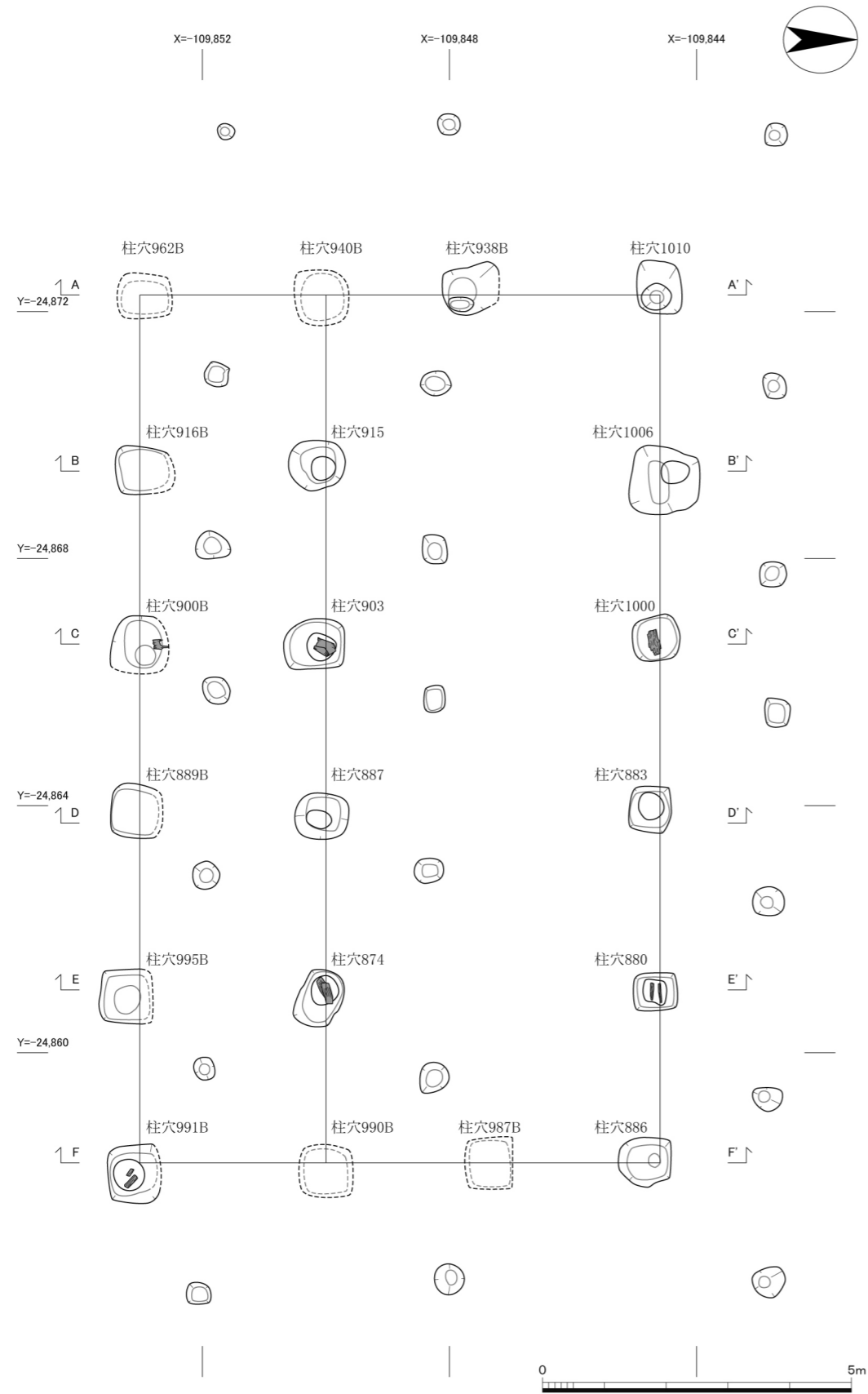


図6 建物5古平面図

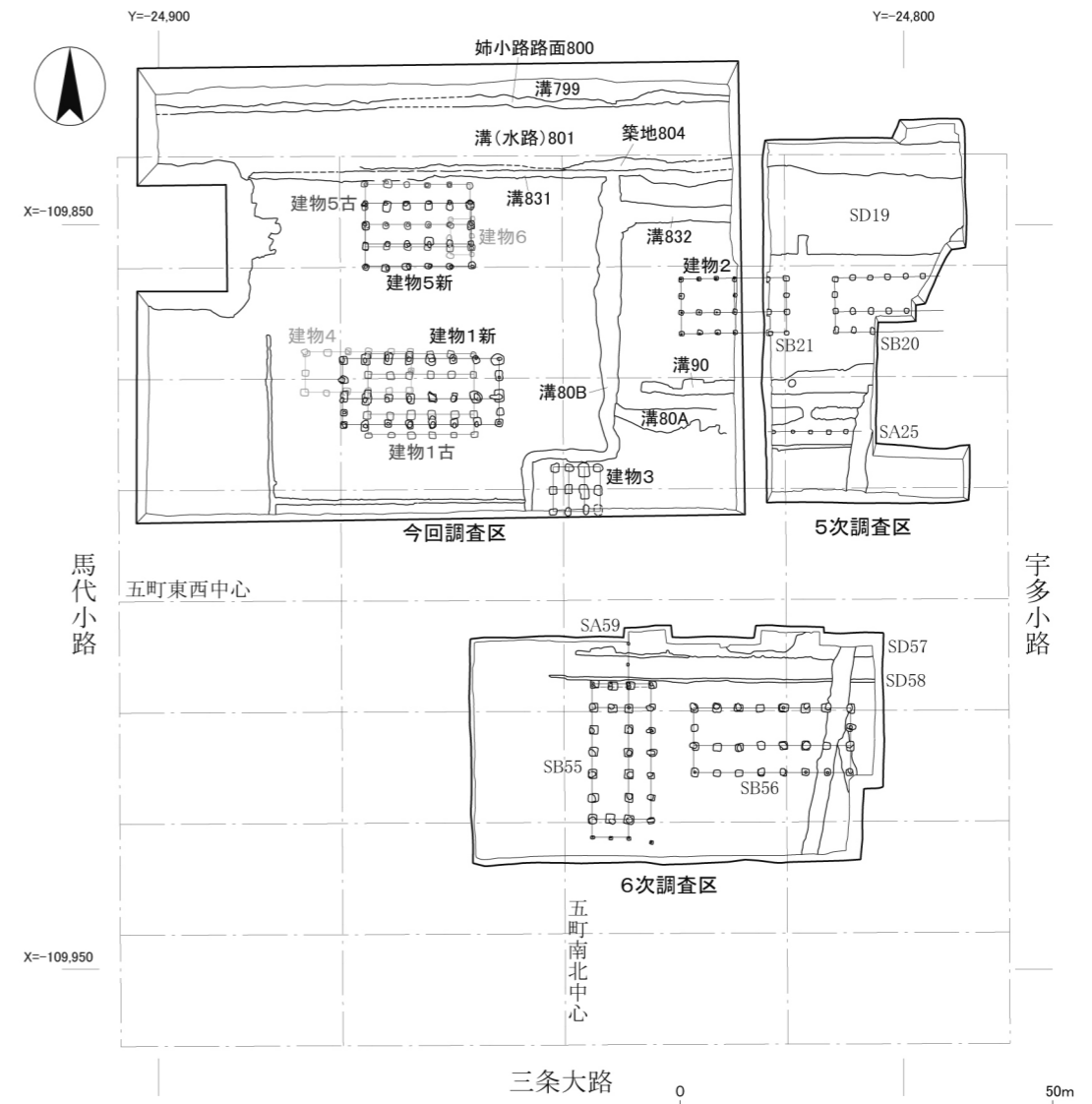


図7 右京三条三坊五町遺構概要図